

真岡労働基準監督署長が「行動災害」防止に積極的に取り組む

優良企業“真岡の星☆”を訪問しました！



真岡労働基準監督署長
内田一弘



株式会社真岡製作所
代表取締役社長
佐藤克彦



真岡労働基準監督署長は12月10日、「行動災害」防止に積極的に取り組む優良企業を“真岡の星☆”と称して訪問し、行動災害防止の取組について、事業主や労働者と意見交換を行いました。

株式会社真岡製作所の取組みを紹介します。

 MOHKA 株式会社 真岡製作所

- 所在地：真岡市松山町8番地
- 従業員：297名
- 事業概要：鋳鉄鋳物製造
(自動車部品)



12月は「転倒災害+（プラス）防止キャンペーン月間」です！

1.工場内通路の滑り止め施工



工場敷地内で、雨に曝される台車運搬を行う個所について、通路の塗装に滑り止め加工を施工することにより、転倒防止を図っている。



勾配の影響で降雨時に滑りやすくなるため対策を実施！

2.階段 踏み面への滑り止め設置(一部)



階段の踏み面に滑り止めを設置することにより転倒防止を図っている箇所がある。

「転倒は下りが9割」
「最後の1段が最も危険」
「人間は認識するまで0.3秒かかる」
これらを踏まえて、最後の3段だけ滑り止めの色を変えてテストしている箇所もある

階段の踏み外しを防ぐための対策を実施！

3.体感機による感受性の向上



工場内で想定される様々な状況を体感機を使用することにより危険な状況を**実体験**できる。これにより、知識だけでは得にくい危険への感受性を高めることができる。このように、口頭での教育ではなく自分の体で体感することで、外国人作業者のように言語が違ってても同じような教育の効果が見込める

「知識」より「経験」として定着させるための体感教育を実施！



署長も危険を体感！（左：転倒 右：短絡（ショート））

4.重点項目の設定

ポケットハンドが招く事態

Những tình huống do việc rút tay vào túi gây ra

- * いざという時に手が出ない
Không thể đưa tay ra khi cần thiết
- * 会社の雰囲気悪くなる。
Làm xấu đi bầu không khí làm việc của công ty.
- * 姿勢を悪くする。
Làm tư thế của bản thân xấu đi. 無意識。だからこそ危険



冬季の**重点項目**として「ポケットハンド禁止」を周知した。現場従業員の半数近くを占めるベトナム人にも分かるように、**日本語とベトナム語を併記**した資料を作成し、また、安全衛生巡視の際に着用するベストにも表示し、**継続的に周知**を行っている。



全従業員が理解できるようベトナム語を併記して周知徹底！

5.インソールによる躓き防止の調査

真岡工業団地 安全衛生管理者研究会の分科会による研究テーマの一つに「インソールの効果確認」がある。取り上げたきっかけは腰痛予防であったが着用者へのアンケートでも躓き防止が期待されている。引続き着用感をアンケートにより躓き防止にも効果があるかを確認し、導入への足掛かりとしたい。



IRERUDAKE社製 「IRERUDAKEインソール」

労災防止団体に所属し安全に対する知見を広げる活動を実施！

● トップ対談



- ・仕事も安全もトライ&エラー！ブラッシュアップして、より良いものができる。
- ・安全に力を入れて職場環境を良くしたことで、社員が当社を選んでくれた。

● 従業員との座談会



- ・インターン時に、ゼロ災に力を入れていることに魅力を感じて入社しました！
- ・定年退職後に入社しましたが、働きやすい職場環境に感謝しています！

“真岡の星☆”訪問を終えて・・・

佐藤社長談話

- 働く皆さんが安全で健康に働ける環境づくりに注力していくことは、経営者に課された最大の課題だと考えています。
- 目先の収益も大事ですが、先ずは、働く皆さんの為に会社としてやれることを愚直に続けていくことが重要で、その結果として企業が発展していくと信じて、経営にあたりたいと思っています。
- 転倒防止は高齢作業者の安全確保にもつながるため、転倒しにくいインソールの導入等、色々な対策を試していきたいと考えています。

内田署長談話

- 真岡の星☆は初めての取組みとなるが、安全活動に積極的に取り組む優良企業を訪問してみると、品質の追求も当然大切であるが、安全があってこそ安心な職場が作られ、そこで働く労働者のプライドが形成され、労働者が辞めにくい職場となり、品質も向上する。これが企業が成長することなのだと感じた。
- 若手社員と社長との対談で印象的だったのは、入社して良かったことは安全活動に力を入れていることを実感できるという話だ。安全は一朝一夕で大きく進むものではない。社員に安全活動を実感させることが推進力となり、次世代へと続く安全文化となるのだろう。

